

日韓定期戦 2017

試合結果・戦評報告書

競技日	2017年7月29日			
種別	男子	会場	駒沢オリンピック公園体育館	
	Aチーム名	Bチーム名		
	JAPAN		KOREA	
得点合計	小計		小計	得点合計
28	12	前半	13	28
	16	後半	15	

戦評

男子の試合、日本のスローオフで開始。攻撃陣は左右のバックに徳田・東江が入り、DFでは代わって成田・笠原がゴール前を固めるといった6-0の布陣でスタート。一方韓国は3-2-1DFでのスタート。試合展開は、韓国チヨ・テウンのカットインでの得点で動き出した。日本もカットインプレーヤポストで追いかけ、一進一退のゲーム展開となった。韓国は、ロング・ポスト・速攻と効率よくよく点を重ねる。日本は、徳田が速攻や小気味よいロングシュートなどで3連取。17分、7対7となる。シゲルドソン監督がチームタイムアウトを請求。これが功を奏するかと思われたが、逆に9対12とリードを奪われる。ここから日本も踏ん張り、門山・渡部・笠原で3連取。残り30秒で同点と追いついた。ここでDFが踏ん張り切れず、外から叩き込まれ、12対13で前半を終えた。

後半に入り、一進一退でゲームは展開した。18分過ぎ、24対22と2点リードで、そのまま日本の先手で進むと思われたが、退場者が出てピンチが来た。このピンチを日本はしのぎ切れず、20分には24対24の同点とされてしまう。ここからは両チームのベンチから合計3回のチームタイムアウトが請求されるなど、ベンチの動きも活発となった。終盤、点の取り合いとなつたが、残り20秒でシゲルドソン監督はタイムアウトを請求。選んだ戦術はGKを下げるCPを入れる7人攻撃。残り4秒でサイドから渡部が決め、28対28。そのまま同点で終了した。